

えこひんぐ

9

立川と語ろう 立川に生きよう
September 2004
écoutez bien Vol.23 No.238





こ
が
ね
い
ろ

黄金色のウリ科

【かぼちゃ】

身近なウリ科の野菜も抗酸化作用のファイトケミカルを多く含んでいる。

中でもかぼちゃはβ-カロチンが豊富。ビタミンや鉄、亜鉛などもバランスよく含まれていて、抗ガン効果の期待されるまさしく【金】の味だ。



開店直後は毎日大盛況
(幸町農産物直売所)

ファイトケミカルの「ファイト」はギリシャ語で「植物」のこと。もともとは植物自身が太陽の有害光線や虫から身を守るために作り出す物質で、人体に入るとその抗酸化力を発揮して活性酸素から細胞を守ってくれる。種類は豊富で働きも多様。要するに、野菜の色素に含まれていて体にいいと思えばいい。

「体にいいからってそればかり食べていいでいけないのよ」と、日本クッキングスクールの須田校長。「なによりもバランスが大事。タンパク質も脂質もみんな体には必要なんです」ということで、今回もかぼちゃに小豆をあしらってもらった。豆類の持つフラボノイドはかぼちゃと組み合わせることでより効果的に働く。夏バテ気味のこの季節、

体がほしがるレシピだ。作り方は簡単、手軽にできておいしい。

デパートの食料品売り場には旬が感じられなくなってしまった。朝取り野菜が身上の幸町農産物直売所にはもちろん旬がある。夏の終わりは野菜の端境期。畑では秋や冬に向けて作付けが始まる。一番町の内野英樹さんも大根や菜類の準備にかかる。7月の品評会でハウス栽培部門JA東京みどり賞をトマトで受賞した。「うちのこだわりは堆肥かな。普通の堆肥にさらに一年かけて良質の堆肥を作り込むんだよね」。内野さんのこだわり野菜が今度直売所に並ぶのは、秋風が吹く頃になる。

内野英樹さん
(一番町)



調理指導：須田享子

写真：五来孝平

日本クッキングスクール校長
須田享子さん（錦町）

●かぼちゃの小倉煮

ほんのり甘くてなつかしい味。
家庭料理の定番です。

レシピ

材料 (4人分)

かぼちゃ	400g
あずき (乾)	50g
だし	1と1/2カップ
砂糖	大さじ3
みりん	大さじ2
しょうゆ	大さじ1/2

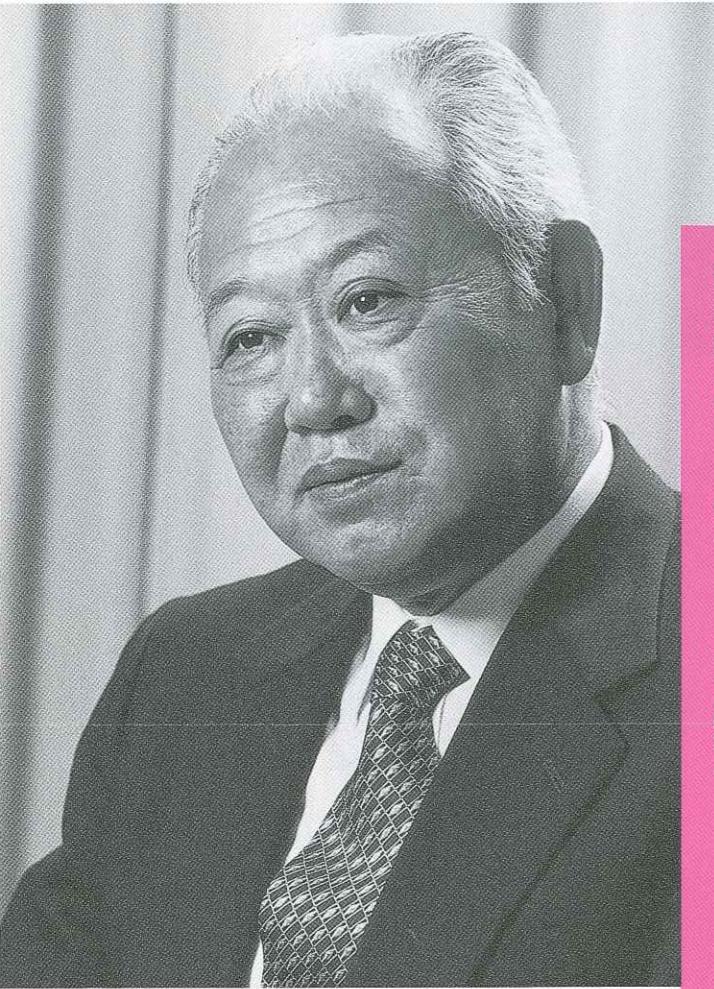
作り方

- 1 あずきは4倍の水を加えて火にかけ、煮立ったらザルに上げて汁を取る(濾きりといふ)。再び4倍位の水を加えて煮立ったら差し水をして、弱火でやわらかくなるまで一時間くらい煮る。
- 2 かぼちゃはわたと種を取り、一口大に切って面取りし、皮の表面を味がしみこみやすいようにところどころむく。
- 3 (2)を皮目を下にして鍋に入れ、(a)を加えて紙ぶたをして3~4分煮る。
- 4 (3)にあずきを加えてかぼちゃに竹串が通ったらしょうゆを加えて、火を止め煮含める。

*あずきは水に浸すと胴割れがあるので、洗ったらすぐに火にかけて煮る。もっと手軽に作りたいときは、砂糖を抜いてゆであずき(加糖)を使うとよい。

仕事抜きで惚れてしまう映画があります

新館がオープンしたシネマシティ取締役営業部長
鈴木 宏兒さん



於：曙町 シネマシティ
写真：五来 孝平

芳賀 こんにちは。今日はシネマシティの方にうかがいましたが、7月31日に待望の新館「シネマ2」がオープンしました。2館合わせて11スクリーン。立川に10劇場があった映画全盛期に匹敵するシネコンとなりましたね。

鈴木 シネマシティのオープンが平成6年ですから今年でちょうど10年になりますが、計画された平成4年頃、中央、セントラル、松竹の北口三館合わせても年間入場者数は20万人くらいだったと思います。映画館がいちばん苦しい時代に6スクリーンのある施設——当時はシネコンという言葉もありませんでしたから——は立川では多すぎると言われたものです。しかし、ちょうどお客様が映画に再び関心を向け始めた時期にも重な

り、おかげさまで良い評価をいたしました。「シネマ2」は私どもの社長(川手弘太郎社長)もシネマシティよりいい映画館を作りたいという想いで計画し、オープンさせていただきました。

芳賀 鈴木さんは高校を出てすぐに映画館に入られたんでしょ。やっぱり映画好きが嵩じてなんですか？

鈴木 映画を観ることも好きでしたが、映写機に触りたいというのが大きかったんです(笑)。高校のとき近くに小金井セントラルという映画館があって、その映写技師の方と知り合い、支配人さんたちが帰った夜9時頃から映写機に触らせてくれた。いまの映写機は光源がキセノンランプですが、当時はカーボンアークといって炭素棒を電気で燃やしていました

た。炭素棒の間隔を一定にして安定した光を出すのが技師の腕なのですが、そういう映写技師の仕事がひと通りできるようにならんんです。高校を出て他の会社で働いていて、たまたま映画を観に行つたとき、その頃には映写機をいじっているのを知っていた支配人に声をかけてもらって働き始めました。

芳賀 それ以来映画一筋……？

鈴木 まだ若かったもので、あちこちから声が掛かると気持ちが動くわけです。吉祥寺のオデオン座さんのお世話になり、本屋さんで仕入れ担当もしました。そこもどうかと思っていたとき、新聞広告で当時のタツミ興業の営業募集に応募しましたが、営業ではなく映写技師としてニュー八王子で働くことになりました。昭和39年の8月です。

芳賀 昭和44年に立川の松竹に移られて、それ以来ずっと立川ですね。いらした当時、立川には北口三館を含めて10の映画館がありました。シネマシティができる直前には鈴木さんが支配人をされていた三館以外、全部なくなっていました。ある意味で日本映画界の激動期をそっくり立川で経験された。

鈴木 立川に移る一年ほど前に社内で感想文を書かされました、他の人が数枚書くところを原稿用紙20枚くらい書いたら、先代の社長が変なやつだと思ったんでしょうね。営業として立川に来いと(笑)。私がタツミ興業に入った年に東京オリンピックがありテレビが一気に家庭に普及しました。テレビの影響はいちばん大きかったと思いますね。北口三館以外の劇場が閉じられたのは、立川南口の区画整理など個々の事情や経営的判断がおありになったと思いますが、立川だけでなく昭和40年代から50年代にかけて、中央線沿線にあった多くの映画館が消え

ました。会社に入って40年、立川に来て35年、つらかったり落ち込んだこともありますよ。しかしそういう時期に映画館で働き続けることができ良かったと思います。映画産業が成長している時期なら自分の与えられた範囲の仕事をするだけだったかもしれないのに、人が減るのでありとあらゆる仕事をしましたし、立川の多くの人と知り合うこともできました。

芳賀 いまや人気映画には長い行列ができる賑わいです。従来の映画館というイメージを一新した内外装や最新の音響設備のある「シネマ2」がオープンして、ちょっと隔世の観がありますね。

鈴木 映画館以上に世の中が様変わりしましたよ。私が映画の仕事を始めた頃にはテレビも普及していなかったしコンピューターなんか想像もできなかつた。新館は建物もいい、音もいい、あとはお客様に十分映画を楽しんでいただくお手伝いをする。それを忘れないことだと思います。どんなご商売でもそうでしょうが、花に例えれば咲き続けなくてはいけない。花は咲くことで蝶や蜂に来てもらい自分の命を残していく。枯れていなければいけないです。映画館というのは、幸いなことに映画という商品が常に時代の話題になっている。恵まれている分、その上にもうひとつ努力しないといけない。これまで映画に関連したイベントを企画したりしてきましたが、「シネマ2」でもいろいろなことが考えられると思っています。

芳賀 スクリーンも約2倍に増えました。個人的にはハリウッド映画だけではないマイナーな映画や日本の映画を観る機会が増えるといいな、と期待しています。

てるんですが……。

鈴木 人気のある映画の上映回数を増やしてほしいというご要望もありますし、より多くの作品をというご要望もあって難しいのですが、われわれ業界の言い方で単館系と呼ぶ芸術的な映画も継続して上映していこうと考えています。仕事ですから年間120本ほどの試写を観ますが、まず、商品としてこの映画はどのくらいのお客さまにいらしていただけるか、お客様の中心は女性か男性か、若者か年配の方か、そういうことを考えるわけです。が、私も人間ですから(笑)、仕事抜きで惚れてしまう映画もあります。営業的なことをすっかり忘れて観させしまう、いけない映画が年数本あります。

芳賀 ああ、やっぱり鈴木さんは映画の仕事が天職でいらっしゃる(笑)。

鈴木もちろん映画館としては偏りなく作品を上映していくことが基本です。同時に映画を観ていただいた方に感動していただける、自分も感動してしまう映画がある。そういうことを仕事で味わえるのは幸せかなと思います。1本の映画で人生観が変わることがあると言われますが、私自身のことを考えても、多くの映画に慰められたり励まされてきました。若い人たちに話す機会があると、10代後半から20代にかけて観て感動した映画、読んだ本は、時を経ても折に触れて思い出すものだと言っています。そしてお客様にも映画に感動していただいて、その感動を他の方にも語って分けていただきたい。実は、ここ2カ月ほど、新館オープンのことなどで試写をほとんど観られないでいたんです。また月10本のペースで観ていかなくちゃいけませんね。

みふじサイクル	若葉町1-12-4 536-7166
生鮮館 和光 立川店	若葉町1-13-2 538-3121
いなげや 立川若葉町店	若葉町3-21-1 537-4119
SHOP99 若葉町店	若葉町3-37-1 534-2941
館 処 舎 利 と ね た	若葉町3-43-2 537-4120
パティスリープレミエール	西砂町1-36-11 531-4835
有限会社 東京きのこ社	西砂町2-32-2 531-5625
パン工房 ゼルコバ	西砂町5-6-2 531-2392
fresh shop スーパーはしもと	上砂町3-2-1 536-2331
多摩中央信用金庫 栄町支店	栄町2-59-8 536-9711
いなげや 立川栄町店	栄町3-7-1 523-7201
チーズ王国本社	栄町4-16-1 525-9800
やきものギャラリー 陶庵	栄町4-18-1-1F 528-7761
手打ちそば 信更	栄町5-12-1 537-0911
FUKUSHIMAYA 立川店	栄町5-36-1 534-1700
相模屋酒店	栄町5-61-8 536-2476
メンズカット ヤザワ	栄町5-61-31 536-8738
森田接骨院	栄町6-6-25 535-6240
立川農産物直売所	幸町1-14-1 536-2439
いなげや 立川幸町店	幸町1-23-6 537-1820

えくてびあんの館
立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 若葉町・西砂町・上砂町・栄町・幸町のお店です。

中華レストラン SANFUJI	幸町2-3-5 536-3813
西武信用金庫 幸町支店	幸町2-11-34 537-3101
超こってりラーメン パワー軒	幸町2-35-3-1F 535-1665
お菓子処 花奴万葉庵 すすかけ通り店	幸町3-17-3 536-8785
至誠キートスホーム	幸町4-14-1 538-2323
とんかつ・割烹 かつ亭	幸町4-59-3 535-4611
和洋菓子 たちばな	幸町5-2-16 537-0347
BSタイヤショップ 佐藤商会	幸町5-10-2 537-0912
古楽の小屋 ロバハウス	幸町6-22-32 536-7266
めがね・とけい・補聴器 カワハラ	錦町1-1-25 525-4427
御菓子司 やな瀬	錦町1-3-12 522-3969
宮地楽器 MUSIC JOY 立川南	錦町1-3-21 526-1779
中国料理 五十番	錦町1-4-5 522-472
手づくり味噌の材料専門店 北島こうじ店	錦町1-4-28 524-3190
new gyoza1059 餃子天国	錦町1-5-6 526-2283
中国気功整体院 立川院	錦町1-5-22-1F 529-1088
日本クッキングスクール	錦町1-7-31 522-3440
ステーキレストラン リブレ	錦町1-8-3 527-1630
ザ・クロスホテル立川	錦町1-12-1 521-1111
美容室 アリス	錦町1-15-21 525-1100

一本の竹に 宇宙を聴く

普化宗尺八奏者、彈 真空さんの吹・作・創

明治時代に消えた虚無僧=普化宗尺八を
現代の楽器として演奏する音楽家が立川にいる。
彈 真空さん。

自ら採った竹を八王子市上恩方にある
工房で尺八に仕上げ、
自ら創作した曲を演奏する。
一本の竹からできた素朴な管の音が、
緑に囲まれた自然と響きあう。

写真：中村 伸

天蓋をかぶり袈裟を付けた虚無僧姿での演奏
(2004年3月25日立川望星講座)

工房は恩方の養蚕農家を再現した建物の2階



弾さんが作り、演奏する尺八は地無し管とも呼ばれる。明治以後、他の楽器や西洋音楽と合奏するために改良された縦ぎ管の尺八と違い、自然の竹を根元から七節で切っただけ。一本一本の竹の個性そのままに形も音の響きも違う。虚無僧が使う独奏用の管だ。

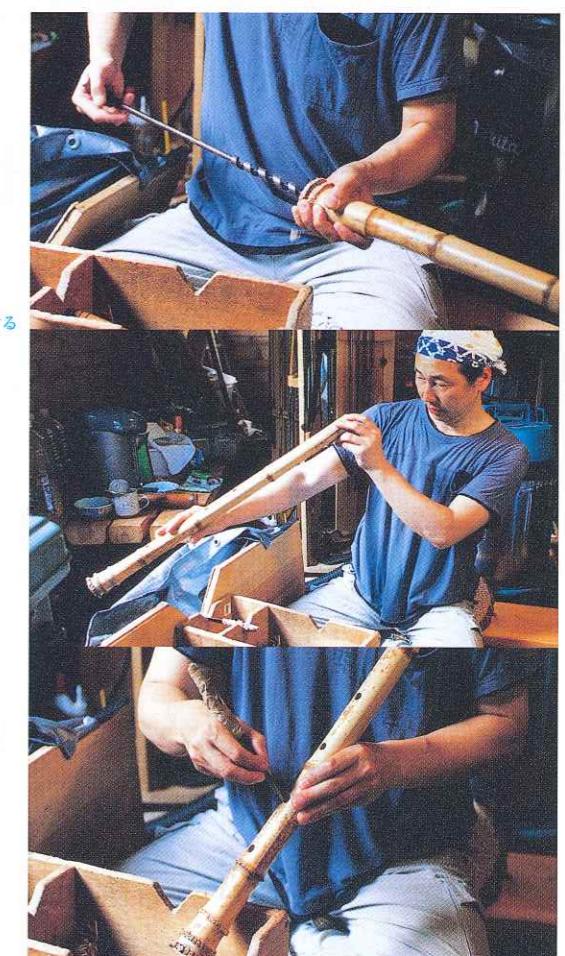
工房には材料となる竹が幾百本と並ぶ。日本全国の真竹の林を訪ねて採り、油抜きをし数年寝かせたもの。炭焼きに似た窯で焼いて入れることもある。年間採る200本ほどの竹から、会心の尺八に仕上がるものは数本しかない。

幼い頃から横笛、ピアノ、ギターなどに親しみ、専門学校の講師をしていたが、民族音楽や即興演奏の研究をしていて孤高の普化宗尺八家、故高橋空山の音に出会い、それまでの音楽活動をすべてやめた。

正倉院の時代から形や大きさも変わってきた尺八は、江戸時代に虚無僧の楽器として完成された。本来、楽器を作ることと曲を創り演奏することが一体不可分とされる。自然の産物である竹の響きを通じて自己と自然・宇宙が渾然となった「一音成仏」の境地。現代にその理念を求めて、演奏家として活動し、管を作り、曲を創る。



右から古代尺八、
一節切（2本）、
三節切、普化宗尺八



竹の節に穴を開ける

工具は使いやすいように
工夫したオリジナル

伊藤 光則さん(錦町)

奥さまの友紀さんともども陶芸家。砂川町のアトリエを所沢市に移して毎日砂川の自宅から通っている。ふわっと雲のようであったり果実のようであったり、自由で大胆なフォルムの作品は、繊細でシャープな作風の友紀さんと対照的でありながら、ともに数々の陶芸展、クラフト展で入賞を重ねている。大きな檸の木と茶畑に囲まれた工房の入り口には古びた「陶八陶房」の看板。名前の由来は、かつて立川でクラフトマン、アーティストが共同運営していた「スタジオ108」。原点としての伝説的な名を大切に守っている。

所沢市「陶八陶房」近くで 写真:細江英公

タチカワ誰故草¹⁴

王様は白衣だ

森 忠明

伊勢丹の8Fにある『魯山』へ、毎日のように美味くて安い鮨を食べにゆく。

「十日ほど北海道旅行。来なくなつたからって死んだと思わないでね」と喋つたら、福生市出身で博識青年の和田氏が「おみやげは要りませんから、土産話を待つてます」。ニギリながらそう言つた。

で、件の土産話だが——登場人物や地名は匿名表記とさせてもらう。理由は後言します。

所は道東の或る街。そこで、私が編集したエッセイ集の発刊記念パーティーがあり、出かけたのだ。

百二十人の参会者を前に、つたないスピーチをしたら、主賓として招かれていた温雅な老人が頻りに私を褒める。

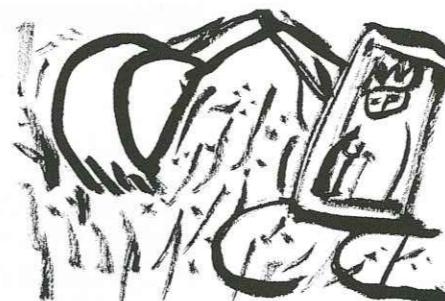
「明日、ぼくの王国をご案内したい。U君(エッセイ集の著者)と一緒にいらっしゃい」。

パートナー幹事の説明によれば、老人は地域最大の精神病院の院長で、たいへんな人望の持ち主なのだそうだ。

翌朝。或る街の中心部から車を飛ばして一時間余り。渡されていた地図をたよりに運転していたU君は、地元の人間のくせして不安な顔いろ。彼も初めての場所なのだった。

秘境とか仙郷とかいう言葉が大げさではない空間に、その“王国”はあった。

いつ誰が掲げたのか、衛兵のいない門柱に〈WELCOME 森忠明先



挿画:野崎義成

生の貼り紙。うつそとした白樺林の小径を徐行すること約二分。赤い屋根の木造二階建が現れ、バルコニーで手を振つてゐる王様が見えた。クインの姿も従僕の影もなく、すっきり独りであった。手摺には「シャヤル城」と横書きの看板。王様が手すから掘つて造つたという池を囲むように、十七世紀の大砲が三門(惜しむらくはレプリカ)。即席鍋焼きうどんの持て成しを受けたのち、王国訪問記念植樹の儀にうつた。既に用意されていた桜桃(千円の値札つき)を、どこに植えるか少時考えていた王様は、やはり自らバックホウを操縦し、そのパケットとブレードとクローラーベルトで大小の木々や草花を根こそぎ。二十分かけて五メートル四方の平地をこしらえ、私に高砂という名のサクランボを植えさせたのだった。

一階の調見室?には、なんと五百万円もした織田廣喜の油彩をはじめ、池田満寿夫、アンディ・ウォーホルなどなど、本物の名画が飾られ、またなんとセコム無し、夜は無人になると言う。それが匿名とした理由である。

たぶん王様は聖なる痴者か大愚たらんとしているのであり、秀れた精神科医たるべく、あの巨大箱庭療法をご自身へ施しているのであろう。

北の“童話の国”から憂世の東京に戻ると、参院選の真っ最中で、こんどは単なる智者の“道話の国”に迷い込んだようだつた。



■さくらい よしこ
ベトナム生まれ ハワイ大学歴史学部卒業 クリストチャンサンエヌモニター紙 東京支局勤務。アジア新聞財団DEPTH NEWS記者、同東京支局長を経て80年からジャーナリストとして活動を開始。96年まで日本テレビのニュースキャスターを務めた。94年SJ賞(女性放送者懇談会賞)、95年に第26回大宝賞一ノンフィクション賞を、98年には第46回菊池寛賞を受賞。近著に「論戦2003 明日の道を拓け」(ダイヤモンド社)、「教育が拓く未来」(PHP研究所)など多数。

えくてびあん流

櫻井よしこ 文化講演会
「教育が拓く未来」

日本を代表する女性ジャーナリストが、この国の未来の可能性は教育のなかにこそあると熱く語ります。

平成16年9月24日(金)

開場 13:30 開演 14:00

アミューたちかわ 大ホール(立川市市民会館)

入場無料(応募者多数の場合は抽選)

主催・株式会社 精神文化映像社

後援・立川市

カトリック女子パウロ会

真如苑

えくてびあん・多摩てばこネット

ご希望の方は、往復ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、希望人数(本人を含め2名様まで)を明記の上、下記の宛先までお申し込みください。当選者の発表は入場券発送をもってかえさせて頂きます。

【宛 先】〒190-0012 立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
えくてびあん「講演会」係

【締 切】平成16年9月14日(火) 当日消印有効

【問い合わせ】042-523-9898 えくてびあん「講演会」係

この人この店¹⁴パスタの店
パセリ

代表 上川路 豊さん



T190-0022 立川市錦町3-1-21
TEL 042-525-8486
営業時間 11:00~22:00
ラストオーダーは21:30
不定休 毎月お休みが変わります。
お問い合わせください。
<http://www14.plala.or.jp/pasta-parley>

写真:五来孝平



常樂我淨

真如苑提供番組くじょうらくかじょう

スカイバーフェクTV 216ch、マイ・テレビ 84ch

土曜 午前9時~9時15分
午後7時15分~7時30分再放送/火曜 午前9時~9時15分
午後7時45分~8時

放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十八年

真如苑
柴崎町1-2-13 Tel.527-0111(代)

私たちとは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業とお客様……いろいろなコミュニケーションがあります。私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効率的に、行なっている会社です。



大廣社は、企画デザインから印刷加工までを自社内で行っています。

PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING
Daido Kogyo
042-527-1911

えくてびあん(C) 9月号

第23巻 通巻238号

平成16年9月1日発行

発行 えくてびあん編集工房

〒190-0012

東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F

TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065

編集人 芳賀敏博

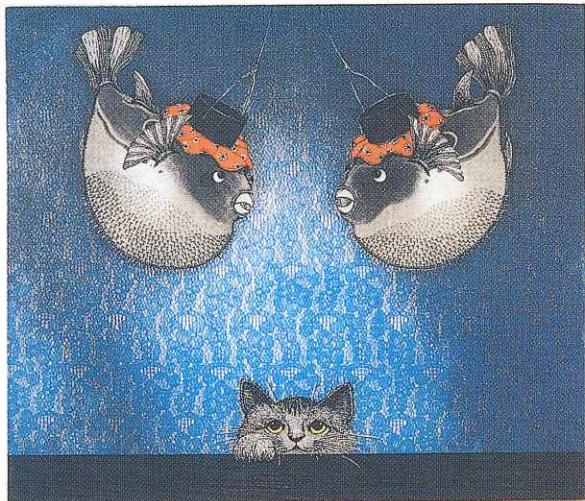
発行人 加賀悦也

印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

郷愁への旅

乗兼広人 銅版画 [2]



「集中-7」

1993年 45.0×40.0cm 3版5色

学生時代から旅が生活の一部になつてゐる。各駅停車のローカル線や青春18きっぷにはよくお世話になる。下関のふぐちゃん（地元ではふく／福（ちようちんと呼ぶ）に出会つたのも、旅の途中だつた。

おどけた表情と、生きたふぐにはないフォルムの面白さ、膨らんだ腹のトゲの質感も気に入つていくつも作品を制作した。そのシリーズの一つが七三年の日動版画グランプリを受賞してデビュー、というより銅版画から逃げられなくなるきっかけになつた。思い出深いテーマもある。掲出作は混み合つた電車で吊り革にぶらさがつた光景をイメージした。それを狙つて凝視している猫がいる。観客であり同時に見つめられる対象でもある人間社会のメタファーといつてもいいだらう。

今も一年の三分の一は旅をしている。下関辺りには相変わらずふぐちゃんが売られているが、最近ぶらさがつているのは東南アジアで作られた外国種がほとんどだ。